

事務事業及び予算の執行実績
(令和6年度分 一部、令和7年度分を含む)

静岡県立稲取高等学校

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	23
3	学校施設の概要	24
4	在籍生徒調	26
5	入学志願者及び入学者数調	27
6	卒業生の動向調	28
7	生徒の状況	29
8	授業料収納状況調	30
9	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	32
10	預金調	33
11	郵券等受払調	33
12	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	34
13	委託料に関する調	35
14	負担金支出調	37
15	建築工事調	38
16	公有財産調	42
17	借地借家等調	44
18	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	45
19	行政財産貸付・使用許可調	46
20	普通財産・借受財産等貸付調	47
21	職員公舎管理状況調	48
22	主要備品調	49
23	職員調	50
24	職員の年齢調	52
25	健康管理	53

□□□□

事務事業の概要

1 概況

(1) 学校の沿革

- 大正8年10月9日 稲取村立稲取実業補習学校設置認可（男子夜間部）稲取尋常高等小学校内に設置（賀茂郡稲取村稲取614番地）
- 大正8年11月15日 稲取村立稲取実業補習学校開校式を挙行
- 大正9年12月1日 町制施行により稲取町立稲取実業補習学校と改称
- 大正14年4月5日 全日制発足 女子昼間部（本科2ヶ年）設置
- 大正15年4月5日 男子昼間部（本科2ヶ年）設置
- 昭和10年7月30日 稲取町立稲取青年学校開設
- 昭和11年6月1日 稲取町立実業学校設置認可（名称：静岡県稲取実業学校）
男子部（農業、水産科）2ヶ年100人、女子部2ヶ年100人定員で、乙種実業学校となる。
- 昭和15年5月20日 校舎移転（第1、2校舎）新築落成（賀茂郡稲取町上百尻1701番地）
- 昭和17年3月31日 修業年限、定員変更 男子部3ヶ年300人、女子部2ヶ年100人
甲種実業学校となる。
- 昭和22年4月1日 県移管となり、静岡県立稲取実業学校と改称
- 昭和23年4月1日 学制改革により、静岡県立稲取高等学校と改称
農業科、漁業科、普通科（女子）を併設
- 昭和23年9月30日 定時制課程（農業科）開設
- 昭和23年12月14日 上河津分校開設、定時制課程（農業科）4年制、定員160人
（賀茂郡上河津村湯ヶ野西畑、村上上河津中学校内に設置）
- 昭和24年4月1日 学区制並びに男女共学制実施
定員 農業科150人、漁業科150人、普通科150人
- 昭和26年4月1日 本校定時制募集停止 定員 普通科300人、農業科漁業科併せて150人
- 昭和27年4月1日 上河津分校に女子短期家庭科設置
- 昭和28年3月30日 本校の定時制課程（農業科）廃止
- 昭和30年4月1日 家庭科設置 定員 普通科家庭科併せて300人、農業科漁業科併せて150人
- 昭和30年7月15日 校歌制定 土岐善麿作詞、信時潔作曲
- 昭和33年9月1日 町村合併により分校名称変更、稲取高等学校河津分校となる。
- 昭和34年9月1日 河津分校校舎移転（賀茂郡河津町湯ヶ野146番地-1）
- 昭和35年4月1日 家庭科募集停止
- 昭和37年3月31日 河津分校廃止、家庭科廃止
- 昭和37年4月1日 農業科漁業科募集停止
定員 普通科150人、農業科漁業科2年生も普通科に編入
- 昭和38年3月31日 農業科漁業科廃止
- 昭和38年4月1日 定員 普通科300人
- 昭和39年4月1日 定員 普通科250人
- 昭和40年10月7日 静岡県立稲取高等学校全面移転が県議会で可決される。

昭和41年 2月12日 東伊豆町稲取字上野3012番地の2 整地工事着工

昭和42年 9月 1日 新校舎完成移転完了、旧校舎閉鎖

昭和43年 4月 1日 定員 普通科240人

昭和43年12月25日 体育館竣工

昭和44年 4月 1日 定員 普通科235人

昭和44年11月15日 創立50周年 新築移転記念式典挙行

昭和45年 4月 1日 定員 普通科230人

昭和46年 4月 1日 定員 普通科225人

昭和53年 1月14日 伊豆大島近海地震により被災
運動場及び擁壁災害復旧工事施工（54年 3月10日竣工）

昭和54年 3月30日 水泳プール（25m×8コース）竣工

昭和56年 3月25日 体育館渡り廊下改築工事竣工

昭和58年 3月24日 夜間照明装置新設

昭和58年 3月25日 運動場防球ネット新設

昭和59年 2月 6日 屋外便所新築

昭和60年10月25日 校舎（2号棟）耐震補強工事竣工

昭和61年 3月10日 グラウンド北側法面保護工事完成

昭和61年 4月 1日 制服を改定

平成元年10月16日 生活館兼同窓会館竣工

平成元年11月15日 創立70周年記念式典挙行

平成 3年 4月 1日 定員 普通科180人

平成 4年 4月 1日 定員 普通科170人

平成 5年 4月 1日 定員 普通科166人

平成 5年 8月31日 体育館、卓球場建築工事竣工

平成 6年 3月25日 体育部室竣工

平成 6年 4月 1日 定員 普通科164人

平成 7年 4月 1日 定員 普通科162人

平成 8年 4月 1日 定員 普通科160人

平成11年 6月 5日 創立80周年記念式典挙行

平成14年 1月25日 第1棟耐震補強工事完成

平成14年 9月25日 校内LAN工事完成

平成15年 4月 1日 定員 普通科120人

平成15年 4月 1日 新制服を制定

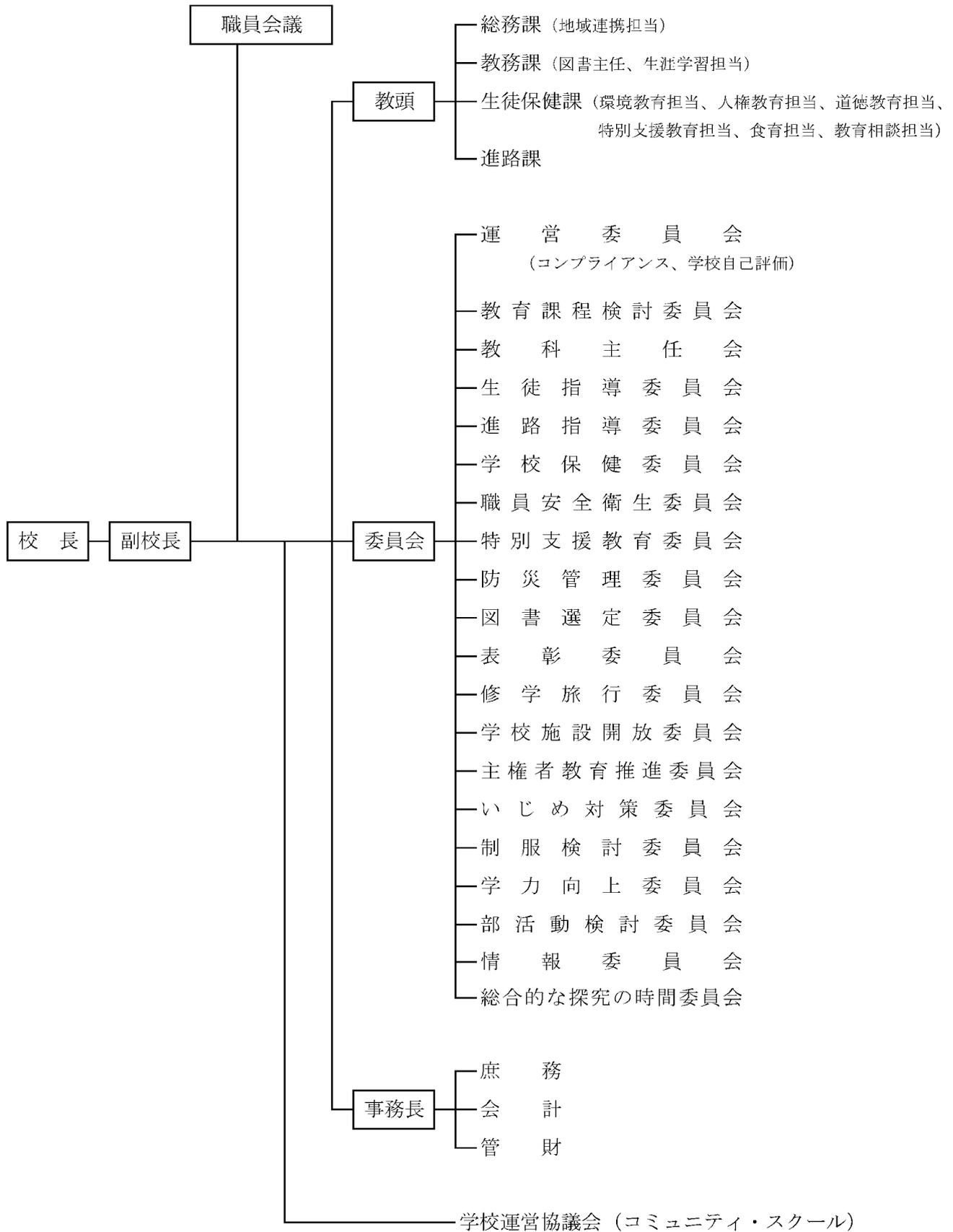
平成20年 2月29日 体育館改修工事完成

平成21年11月20日 創立90周年記念式典挙行

平成30年 4月 1日 定員 普通科80人

令和元年11月12日 創立100周年記念式典挙行

(2) 組織図



2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー

「自己を律し、他者を大切にする」力の育成

- ①「自己管理能力」・・・一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力
- ②「人間関係調整力」・・・他者を尊重し、多様な人々と協力する力

<育てたい資質・能力>

規律性：基本的な生活習慣を確立し、社会のルールや他者との約束を守る誠実さ

協調性：他者を認め、思いやり、誰とでも協働できる力

チャレンジ精神：得意なことだけでなく、苦手なことにも進んで取り組む力

忍耐力：困難なことにも諦めずに、最後までやり抜く力

カリキュラム・ポリシー

- ・多様な進路に対応するコース制と興味関心に応じた幅広い選択科目の設置
- ・個に応じたきめ細やかな支援を可能にする少人数・小集団授業の展開
- ・基礎基本を重視するとともに、他者との協働や発表の場面を取り入れた主体的学びの実践
- ・地域行政・企業・大学等と連携したキャリア教育と、地域をフィールドとした探究的学びの実践
- ・自己を鍛え、仲間とともに高め合う心や社会貢献の姿勢を育む部活動

アドミッション・ポリシー

- ・自ら進んで学習に励み、より高い目標に向かってチャレンジしようとする生徒
- ・学校行事、部活動、地域との交流等に積極的に参加し、自分の可能性を伸ばす意欲のある生徒
- ・学校生活を通して規範意識を高め、仲間を大切にし、ともに成長したいという意志のある生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア 高い志を持ち、日々努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。

イ 基礎学力の定着を図るとともに、ICTを活用する等、個別最適な学びの研究・実践をする。

ウ 豊かな人間性と人権意識の育成を図り、生徒が主体的・協働的に行動する教育活動を実践する。

エ 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を醸成するとともに、たくましい心身を育成する。

オ 生徒の安全意識の向上を図るとともに、安全・安心な教育環境を整備する。

カ 地域との連携を推進とともに、地域・家庭への積極的な情報発信を図る。

キ 働き方改革の実現に向け、教員の意識を高め、効率的な学校運営を目指す。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	高い志を持ち、日々努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。	「進路や将来の生き方についての考えが深まった」と答える生徒 90%	「進路や将来の生き方についての考えが深まった」と回答した生徒 94.6%であった。ガイダンスや進路だよりを通じて、進路について考えを深めることができた。	B	生徒と保護者の進路に対する理解に差がみられるため、来年度は、ガイダンスや進路だよりを通じて、その差を埋める工夫を研究していきたい。
イ	基礎学力の定着を図るとともに、ICTを活用する等、個別最適な学びの研究・実践をする。	「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒 90%	生徒を対象とした授業評価アンケートで、「先生の授業がわかりやすい」と答えた生徒は 96.3%であった。各教科で、少人数指導、ICT活用等の研究ができた。	A	個々の生徒を見ると、学習習慣の確立はまだ十分とは言えない部分があり、個別最適化の学びについてや、主体的な学びについて研究していく必要がある。
ウ	豊かな人間性と人権意識の育成を図り、生徒が主体的・協働的に行動する教育活動を実践する。	「学校に居場所がある」と答える生徒 90%	「学校に居場所がある」生徒の割合は 95%と高い状況である。一部にはコミュニケーションがうまく取れなかったり、孤立傾向にある生徒もいるが、生徒同士でサポートし合う様子が伺える。	B	アンケートの結果では、95%という高い割合を維持しているが、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう、さらなる環境づくりに努めたい。
エ	基本的生活習慣を確立し、規範意識を醸成するとともに、たくましい心身を育成する。	「基本的生活習慣が改善された」と答える生徒 90%	挨拶や服装面などの生活習慣は良好な状態であるが、一部に規範意識が低く、周囲に迷惑をかけている自覚がない生徒もいる。	B	服装指導においては、生徒自身がルールを理解し、主体的に判断できるような環境づくりを目指していきたい。生徒同士が互いに高め合う指導の在り方についても研究を進めていきたい。

オ	生徒の安全意識の向上を図るとともに、安全・安心な教育環境を整備する。	防災講座で防災意識が高まった生徒 80%	防災講座や防災訓練後のアンケートによると、90%以上の生徒に防災意識の高まりが見られた。	A	学校での防災訓練にも積極的に取り組む様子が見受けられた。引き続き、高い防災意識を持てる指導を行っていききたい。
		「学校の施設設備は管理が行き届いている」と答える生徒 70%	教室や体育館などの不具合箇所等、教育活動に影響が出ないように安全状態が保たれるよう計画的に修繕を進めた。	B	改修を伴うような修繕は制度上既定予算では行えないため即時対応は難しいが、引き続き所管課への要望を続けていく。
カ	地域との連携を推進するとともに、地域・家庭への積極的な情報発信を図る。	「本校では地域との連携が積極的に行われている」と答える生徒・保護者 90%	地域との連携が積極的であると回答した割合は、生徒が 96.6%、保護者が 81.6%であった。	B	授業、部活動、学校行事のいずれも、地域と積極的に連携している。この取り組みを継続していきたい。また、これらの活動について、保護者への発信にも努めていきたい。
		「情報発信を積極的に行っている」と答える保護者 80%	保護者を対象とした学校評価アンケートでは、80%以上の保護者が該当項目について『当てはまる』と回答した。	A	SNS 等を活用して、積極的な情報発信に努めていきたい。また、地域の 50 歳以上の方々への情報発信についても研究を進めていきたい。
キ	勤務時間管理に対する教員の意識を高め、効率的な学校運営を目指す。	長時間勤務者の削減と健康管理の徹底	職員アンケートにおいて、『働きやすい職場である』という設問には、全職員が肯定的な回答をした。しかし、勤務時間に関する数値を見ると、改善の進みは鈍い。	C	来年度は、より成果のある取り組みを進めることで、勤務時間の削減を目指したい。

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当
ア	高い志を持ち、日々努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・地元行政・企業等と連携したキャリア形成 ・進路ガイダンスを通じた体験学習や進路だより等の情報提供の充実 	「進路や将来の生き方についての考えが深まった」と答える生徒90%以上	進路課
イ	基礎学力の定着を図るとともに、ICTを活用する等、個別最適な学びの研究・実践をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・学び直しから段階的に基礎学力を定着させる指導の徹底 ・小集団編成によるきめ細かい指導、ICTを活用する等、個に応じた学習及び学習習慣確立の研究・実践 ・学習意欲を高め、学習習慣を促進する指導の工夫 	「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒90%以上	教務課
ウ	豊かな人間性と人権意識の育成を図り、生徒が主体的・協働的に行動する教育活動を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援心理アドバイザーと連携した人権教育の実施 ・学校行事を通して、周囲と協力し主体的に行動する力を育成 	「学校に居場所がある」と答える生徒90%以上	生徒保健課
エ	基本的な生活習慣を確立し、規範意識を醸成するとともに、たくましい心身を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の目線に沿った組織的生徒指導の実現 ・面接やアンケート調査を通じた「目と手と心の行き届く」支援 ・外部との連携による規範意識の啓発 	「基本的な生活習慣が改善された」と答える生徒90%以上	生徒保健課
オ	生徒の安全意識の向上を図るとともに、安全・安心な教育環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に参加する防災講座や防災訓練の実施 	「防災講座で防災意識が高まった」と答える生徒80%以上	総務課
		<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備の定期的点検及び迅速な対応 	「学校の施設設備は管理が行き届いている」と答える生徒70%以上	事務部

カ	地域との連携を推進するとともに、地域・家庭への積極的な情報発信を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・授業、学校行事、部活動等で地域活動への積極的な参加 	「本校では地域との連携が積極的に行われている」と答える生徒・保護者 90%以上	生徒保健課
		<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層に対応するため、様々なメディア活用による積極的な情報発信 ・コーディネーターの協力を得て、地域課題について探究を実施 	「情報発信を積極的に行っている」と答える保護者 80%以上	総務課 探究
キ	勤務時間管理に対する教員の意識を高め、効率的な学校運営を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・時差勤務（夏季休業期間）の有効活用 ・総務事務集約化、校務分掌の見直しに向けての研究 ・休暇を取得しやすい職場環境 ・定時退勤日の設定 	年間 5 日以上の年休取得 100%	管理職

4 監査対象期間における特色ある取組

	年度	取組概要	成果及び課題
学習指導	令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るとともに、一人一人に応じたきめ細かな学習指導を実践する。 ・ICTを活用した個に応じた学習及び学習習慣確立の研究・実践 ・3年間を見通した探究活動の推進を図る。 ・「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒90% ・授業力向上のため予備校講師によるオンライン研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業や小集団での授業の実施により、生徒個々に合わせた指導を行う。 ・全生徒に、オンライン教育プラットフォームを導入し、ICTを活用した個別最適化の学びの実践を目指した。 ・昨年に引き続き、家庭科、体育、芸術等で地域との連携の授業を実施している。行事、部活動等の学校生活の様々な場面で、積極的に外部団体と連携を深めている。 ・教育委員会「行きたい学校づくり事業」等も活用し、総合的な探究の時間の充実を研究した。 ・前期アンケートでは、「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒が96.1%であった。この水準を維持していきたい。
	令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の定着を図るとともに、一人一人に応じたきめ細かな学習指導を実践する。 ・ICTを活用した個に応じた学習及び学習習慣確立の研究・実践 ・3年間を見通した探究活動の推進を図る。 ・「先生の授業がわかりやすい」と答える生徒90% 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別授業や小集団授業を実施し、生徒一人一人に合わせた指導を行っている。 ・Google Classroomによる学びが定着し、教員・生徒ともに有効に活用できている。 ・行事や部活動等、学校生活の様々な場面で積極的に外部団体との連携を深めている。 ・総合的な探究の時間では、外部から探究コーディネーターを招き、活動を実施した。これは、探究内容の充実、外部との交流の拡大、職員の負担軽減を目的としている。 ・授業アンケートの結果は非常に良好であり「先生の授業がわかりやすい」と回答した生徒が全体の90%を超えている。今後は、理解だけでなく「力の付く授業」の実現を目指したい。

教育課程	令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に伴って変更された教育課程により、円滑に授業等が行われるように務める。 ・令和7年度に向け、生徒の希望、教科の特性に合ったコース・科目選択が行われるように調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・稲取高校では、2年生から文理コースとキャリアコースの2コースを設置しているが、学年全体での説明会や三者面談、二者面談を通じて、コース選択や選択授業について丁寧な指導・アドバイスができています。 ・今年度は新学習指導要領が完成したが、問題なく順調に運用されている。大きな変更は必要ないが、令和7年度以降に向けて、生徒の希望、教科の特性に合ったコース・科目選択となっているか研究・調整を行ってきたい。 ・静岡県教育委員会の「センター配信型遠隔授業」の研究に伴い、稲取高校における配信授業の研究を開始した。
	令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・賀茂地区県立高等学校におけるキャンパス制の導入を見据えた教育課程の研究 ・令和7年度に向け、生徒の希望、教科の特性に合ったコース・科目選択が行われるように調整を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的に、賀茂地区県立高等学校においてキャンパス制を導入し、より連携を深める方針が示された。これを受け、様々な研究を進めなければいけないと考えている。今年度実施した具体的なものとしては、進学講習において、物理や共通テスト対策の情報を下田高校からの遠隔学習で試行した。また、時程の統一や、各校間の教育課程の調整についても研究を進めた。 ・教育課程は概ね固まっているが、生徒の希望や教科の特性に合ったコース・科目選択となっているか、調整すべき点がないかについては、常に確認を行っている。
生徒指導	令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模にあわせた学校祭を開催することができた。 ・目線を合わせた組織的生徒指導の実現を目指した。 ・面談や生活時間帯調査を通じた「目と手と心の行き届く」支援を行った。 ・外部との連携による規範意識の啓発を目指した。 ・生徒によるSNSなどIT関連のトラブルを防止する対策を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭を通して、多くの生徒が活躍できた。今年度は、多くの来校者があり、地域の人々と活発に交流が実現できた。 ・今年度も、各学期に面接週間を設けた。また、面接週間外でも各担任が必要に応じて面談を実施し、生徒の声を聴く機会を確保している。 ・教職員全体が一丸となって生徒に寄り添った指導を実践している。組織的に生徒指導を行える体制づくりも進んでいるが、更に

	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつ運動を、定期的に実施した。 	<p>それを深めていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・薬学講座や情報モラル講座などでは、学校薬剤師や警察関係者をはじめとする多くの外部専門家に講話を依頼し、協力を得た。今年度は、SNSの危険性・SNSによるITトラブルを重点テーマとし、外部エキスパート(通信会社)に協力を得てSNS講座を開講した。 ・全教員と生徒が参加するあいさつ運動を通じて、身だしなみの意識を高め、あいさつをきっかけに心と心を繋ぐ活動を目指した。
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・学校規模にあわせた学校祭を開催することができた。 ・目線を合わせた組織的生徒指導の実現を目指した。 ・面談や生活時間帯調査を通した「目と手と心の行き届く」支援を行った。 ・外部との連携による規範意識の啓発を目指した。 ・生徒によるSNSなどIT関連のトラブルを防止する対策を実施した。 ・あいさつ運動を、定期的に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校祭では、生徒一人一人が持ち味を發揮し、主体的に活動する姿が見られた。地域住民との交流が例年以上に深まり、学校としての存在感を強める機会となった。 ・今年度も各学期に面接週間を設定し、生徒の状況把握に努めた。加えて、面接週間以外でも、担任が必要に応じて個別面談を実施し、生徒の声を継続的に受け止められる体制を教職員で作り出している。 ・教職員が連携し、生徒に寄り添った丁寧な指導を実践している。生徒指導の組織的な体制整備も着実に進捗しており、今後はさらに協働を深め、より質の高いサポートを目指していく。 ・薬学講座や情報モラル講座では、学校薬剤師や警察関係者など多様な外部専門家に協力を依頼し、専門性の高い学びを提供した。 ・全教職員と生徒が参加するあいさつ運動を継続し、身だしなみへの意識向上と、あいさつを通した良好な人間関係づくりを推進した。日常的なあいさつが、学校全体の雰囲気改善にも寄与している。 ・特別支援が必要な生徒に対して、教育委員会に協力をいただき、通級指導を開始した。

進路指導	令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・高い志を持ち、実現に向け努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。 ・クラス・コースの特色を活かした進路意識の高揚を図る。 ・大学や地元の行政・企業等と連携し、キャリア形成の支援を実施する。 ・『進路だより』を定期的に発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、3年1学期の面接基本練習や、PTAやハローワークの協力による就職面接試験対策、外部講師による面接講座等を実践できた。これらにより、志望に応じた進路実現への支援を行うことができた。 ・大学や専門学校の担当者を講師に招いた進路ガイダンスを定期的実施することで、生徒の進路意識を高めることができた。 ・進学講習は自習を中心とする形式に変更し、各生徒が自分のペースで学習を進めた結果、一定の成果が見られた。 ・今年度も1年生向けに、インターンシップと地域創生事業を12月に実施する予定である。地域創生事業では、多くの地元企業に協力いただき、地域の理解を深め、地域に貢献する人材の育成に力を入れている。 ・1年生は静岡大学での研修を実施し、東伊豆町でフィールドワークを行う大学生たちと交流した。2年生の校外進路研修については前年から見直しを行い、首都圏の大学や専門学校を希望に応じて見学できるように計画した。 ・今年度も、進路に関する情報をまとめた『進路だより』を発行した。HPや学校メールでも配信することで保護者や地域の方にも共有している。
	令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・高い志を持ち、実現に向け努力する姿勢を育むとともに、志望に応じた進路実現を図る。 ・クラス・コースの特色を活かした進路意識の高揚を図る。 ・大学や地元の行政・企業等と連携し、キャリア形成の支援を実施する。 ・『進路だより』を定期的に発行する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年生に対しては、1学期の面接基礎練習に加え、PTAやハローワークの協力による就職対策、外部講師による面接講座を実施し、志望に応じた進路支援を充実させた。教職員による面接指導も充実させることができている。 ・大学・専門学校の担当者を招いた進路ガイダンスを定期的に行い、生徒の進路意識の向上に繋げた。 ・進学講習は、生徒が自分のペースで学べる環境を整えた。昨年導入した自習室も、有

		<p>効に活用されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生については、12月にインターンシップと地域創生事業を予定しており、地元企業の協力のもと、地域理解の深化と地域人材育成を目指している。 ・1年生は静岡大学での研修を行い、大学生との交流も実現した。 ・今年度も『進路だより』を発行し、HPや学校メールでも配信することで、保護者や地域と情報共有を図っている。 	
学校安全・保健指導	令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を実施し、学校生活に困難性のある生徒の状況把握と情報共有を行い、指導方法について考える機会を設ける。 ・スクールカウンセラーと連携した人権教育の実施 ・学校保健委員会の実施 ・生徒が主体的に参加する地震避難訓練や防災訓練の実施 ・職員の防災研修も実施し、職員の知識向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も、年3回の特別支援委員会を実施する。スクールカウンセラーにも参加いただき、特別支援を必要とする生徒に対しての情報を共有している。 ・悩みを持つ生徒に対して、担任・学年主任・養護教諭・スクールカウンセラーで連携した組織づくりを行っていく。 ・学校保健委員会では、学校全体の健康意識向上を目的とした取り組みを行っていく。 ・防災訓練では、実践的な避難訓練を定期的実施し、災害対応の重要性と役割を指導した。 ・職員の防災意識および知識の向上を図るため、南海トラフ地震臨時情報等の各状況に応じた行動について、全職員で確認した。
	令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育委員会を実施し、学校生活に困難性のある生徒の状況把握と情報共有を行い、指導方法について考える機会を設ける。 ・スクールカウンセラーと連携した人権教育の実施 ・学校保健委員会の実施 ・生徒が主体的に参加する地震避難訓練や防災訓練の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も年3回の特別支援委員会を開催し、全教職員に加えてスクールカウンセラーと共に、生徒の支援に関する情報を共有する体制を維持している。 ・悩みを抱える生徒には、担任・学年主任・養護教諭・スクールカウンセラーが連携し、早期対応と継続的な見守りを行っている。 ・学校保健委員会では、学校全体の健康

	<p>・職員の防災研修も実施し、職員の知識向上を図る。</p>	<p>意識を高めるための取り組みを継続し、より良い生活習慣づくりを促している。</p> <p>・防災訓練では、実際の場面を想定した避難行動を定期的に行い、生徒に災害時の対応の重要性を理解させた。また、職員の防災知識向上を図るため、職員研修も実施している。</p>
--	---------------------------------	---

5 教職員について

(1) 異動状況

区分	本務職員												臨時・非常勤職員 (会計年度任用職員)						合計				
	教育職員							行政職員					本務計	教諭(臨)	実習助手(臨)	非常勤講師	非常勤労務職員	部活動指導員		ALT	臨時等計		
	校長	副校長	教頭	教諭	兼務講師	養護教諭	実習助手	小計	事務長	主査	主事	主任技能員										小計	
転出者			1		0 (1)		1	2 (1)	1				1	3 (1)								0 (0)	3 (1)
退職者								0					0	0	1		1		1	1		4	4
再任用 (退職者)								0					0	0								0	0
転入者			1					1	1				1	2								0	2
新任者				1				1 (0)					0	1 (0)		1	1			1		3	4 (0)
再任用 (新任)								0					0	0								0	0
差引増減	0	0	0	1	0 (-1)	0	-1	0 (-1)	0	0	0	0	0	0 (-1)	-1	1	0	0	-1	0		-1 (0)	-1 (-1)

※ () 内は他校在勤の兼務職員数 (外数)

(2) 現員数

(令和7年10月31日現在)

本務職員												臨時・非常勤職員 (会計年度任用職員)						合計				
教育職員							行政職員					本務計	教諭(臨)	実習助手(臨)	非常勤講師	非常勤労務職員	部活動指導員		ALT	臨時計		
校長	副校長	教頭	教諭	兼務講師	養護教諭	実習助手	小計	事務長	主査	主事	主任技能員										小計	
1	1	1	16	(0)	1	0	20 (0)	1	1	1	1	4	24 (0)	0	1	6	2	0	1		10	34 (0)

※ () 内は他校在勤の兼務職員数 (外数)

(3) 健康管理について

令和 6 年度

	取組内容	成果・課題
職員 健康診断	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康診断の受診を推進し、疾病の早期発見早期対応を行う。 ・再検査、精密検査の受診を徹底する。 ・結果をもとに健康管理医から指導、助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断受診率は 100%であった。 ・職員の健康状態はおおむね良好である。 ・1月開催の職員安全衛生委員会では、健康管理医から安全衛生についてのアドバイスを受けた。
健康の 保持増進	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の周知・徹底を行う。 ・職員安全衛生委員会を毎月開催し、職場環境を整える。 ・運動不足の職員に対して、体操教室等を周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生はあったが、感染対策の徹底により他教員や生徒への感染を防ぐことはできている。 ・職員トイレや休養室の整備について当番を決めて清掃等行っている。 ・周知だけでなく、実際に運動を行う機会を作っていきたい。

令和 7 年度

	取組内容	成果・課題
職員 健康診断	<ul style="list-style-type: none"> ・職員健康診断の受診を推進し、疾病の早期発見早期対応を行う。 ・再検査、精密検査の受診を徹底する。 ・結果をもとに健康管理医から指導、助言を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断受診率は 100%であった。 ・職員の健康状態はおおむね良好である。 ・1月開催の職員安全衛生委員会では、健康管理医から安全衛生についてのアドバイスを受けることになっている。

<p>健康の 保持増進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の周知・徹底を行う。 ・運動不足の職員に対して、体操教室等を周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生はあったが、感染対策の徹底により他教員や生徒への感染を防ぐことはできている。 ・周知だけでなく、実際に運動を行う機会を作っていきたい。
---------------------	--	---

(4)教職員の研修について

	目 的	内 容	成果・課題
令和 6 年 度	本校の生徒や地域の実態に対する理解を深める。	新任職員研修会 4月5日(金) 参加者：新着任教職員	本校生徒及び地域理解に関する内容を説明し、相談体制を確認した。
	生徒指導についての共通理解と学級経営に関する情報を伝達、共有する。	担任研修会 5月15日(水) 参加者：担任(学年主任兼務)、副担任、生徒保健課教員	生徒指導の実態と基準について再確認を行い、生徒情報を共有できた。
	授業改善のための学習評価について学ぶ(定期訪問研修)。	校内研修会 6月14日(金) 参加者：全教員	適切な評価の実施や、学習評価に基づいた授業改善に向けて意欲を高めることができた。
	教科指導(授業)にICTをどう活用するか、実践例の発表をもとに情報交換等を行う。	ICTを活用した授業研究学習会 8月1日(木) 参加者：全教員	授業やクラス運営における実践例を聞き、ICTのさまざまな活用方法について理解を深め、検討することができた。
	生徒指導や学級経営等に関する情報を共有する。	担任研修会 2月13日(木) 参加者：担任(学年主任兼務)、副担任、生徒保健課教員	生徒情報を共有し、次年度へ向けた申し送り事項を確認した。

	目 的	内 容	成果・課題
令和7年度	本校の生徒や地域の実態に対する理解を深める。	新任職員研修会 4月1日（火） 参加者：新着任教職員	本校生徒及び地域理解に関する内容を説明し、相談体制を確認した。
	生徒指導についての共通理解と学級経営に関する情報を伝達、共有する。	担任研修会 5月15日（木） 参加者：担任(学年主任兼務)、副担任、生徒保健課教員	生徒指導の実態と基準について再確認を行い、生徒情報を共有できた。
	教科指導（授業）にICTをどう活用するか、実践例の発表をもとに情報交換等を行う。	ICTを活用した授業研究学習会 8月1日（金） 参加者：全教員	専門家を講師として招き、研修を実施した。ICTの多様な活用方法について理解を深め、今後の活用に向けた検討を行うことができた。
	今年度より開始された通級指導を受けて実施した研修である。特別支援を必要とする生徒への適切な指導方法を共有し、教職員間で共通理解を図る。	特別支援教育研修会 11月6日（木） 参加者：全教員	本研修を通じて、通級指導の目的や意義について全職員で共通理解を図ることができ、特別支援教育に対する理解と認識を一層深める機会となった。
	情報セキュリティについて、資産管理の重要性や、情報漏洩の防止についての研修を行う。	情報セキュリティ研修 11月18日（火） 参加者：全職員	パスワード管理や端末取り扱い、情報資産の管理方法等について、全職員で共有できた。
	発達支援的な生徒指導の充実（定期訪問研修）。	校内研修会 1月23日（金）の予定 参加者：全教員	発達の特性に配慮した生徒指導について、知識を深める機会とする計画である。
	生徒指導や学級経営等に関する情報を共有する。	担任研修会 2月20日（金）の予定 参加者：担任(学年主任兼務)、副担任、生徒保健課教員	生徒情報を共有し、次年度へ向けた申し送り事項を確認する計画である。

6 防災対策について

		内 容		成 果 ・ 課 題
令和6年度	1 防災訓練の実施（校内）			<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回訓練は、突発地震発生時の基本的行動・避難経路の確認・地区別の人員点呼を実施。また、地区別集合訓練により、地区別で学年ごとの連携を図ることができた。 ・ 第2回訓練は、津波に対する基本的行動・避難経路の確認を実施した。 ・ 第3回訓練は、火災に対する避難訓練と消火訓練、応急担架訓練を実施した。
	月日	訓練事項	訓練内容	
	8/30	地震避難訓練	・ 一次避難と二次避難の方法と避難経路の確認	
	11/6	津波防災訓練	・ 津波に対する一次避難と二次避難の方法と経路の確認	
	12/11	火災避難及び消火訓練、応急担架訓練	・ 避難方法と消火器の使用方法、毛布を使用した担架訓練	
	2 防災連絡会議（校外）			<ul style="list-style-type: none"> ・ 東伊豆町の防災対策、地域防災訓練等について確認した。 ・ 避難所になった場合の教職員の役割分担について確認と各学校の防災計画書の見直しを行った。
	<p>東伊豆町教育長、東伊豆町総務課防災担当、東伊豆町各区長（田町、西町、東町、入谷）地域の学校関係職員（幼稚園、小学校、中学校、高校）の参加による合同での防災連絡会議。</p>			
	3 総合防災訓練（9月1日）及び、地域防災訓練（12月1日）と、自主防災組織が計画する地域防災訓練に、高校生の参加を推進。地域と協力しながら防災意識の向上に努めている。			<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合防災訓練は、台風の影響で中止となった。 ・ 地域防災訓練は、各市町から資料（日時・避難場所）を提供してもらい、全員参加を義務付け、呼びかけを行った。 ・ 各市町の広報等を確認し、積極的に訓練への参加意識を高めることが今後の課題である。

内 容			成 果 ・ 課 題	
令和7年度	1 防災訓練の実施（校内）		<ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回訓練は、突発地震発生時の基本的行動・避難経路の確認・地区別の人員点呼を実施。また、地区別集合訓練により、地区別で学年ごとの連携を図ることができた。 ・ 第2回訓練は、津波に対する基本的行動・避難経路の確認を実施した。 ・ 第3回訓練は、火災に対する避難訓練と消火訓練、煙の怖さを知ること、煙から身を守り避難する煙体験を実施した。 ・ 東伊豆町の防災対策、地域防災訓練等について確認した。 ・ 避難所になった場合の教職員の役割分担について確認と各学校の防災計画書の見直しを行った。 ・ 総合防災訓練は、自治体により実施日が設定された。炊き出し訓練、簡易ベッド設営等、多岐に渡る訓練に参加した。 ・ 地域防災訓練は、各市町から資料（日時・避難場所）を提供してもらい、全員参加を義務付け、呼びかけを行った。 ・ 生徒の総合防災訓練への参加意識を高めていきたい。 	
	8/29	地震避難訓練		・ 一次避難と二次避難の方法と避難経路の確認
	11/5	津波防災訓練		・ 津波に対する一次避難と二次避難の方法と経路の確認
	12/10	火災避難及び消火訓練、煙体験		・ 避難方法と消火器の使用方法、煙からの避難方法
	2 防災連絡会議（校外） 東伊豆町総務課防災担当、東伊豆町各区長（田町、西町、東町、入谷）地域の学校関係職員（幼稚園、小学校、中学校、高校）の参加による合同での防災連絡会議。			
	3 総合防災訓練（8月～11月）及び、地域防災訓練（12月7日）と、自主防災組織が計画する地域防災訓練に、高校生の参加を推進。地域と協力しながら防災意識の向上に努めている。			

7 学校開放について

学校の施設設備を有効に活用し、地域に開かれた学校となるため、学校行事に支障のない範囲で積極的に開放している。

令和6年度

施設名	利用日数	延利用人数	利用者負担金 (電気料実費)	主な利用種目	備考
武道場	237日	3,997人	33,763円	柔道 新体操	
レスリング場	58日	305人	5,892円	レスリング	
卓球場	117日	862人	34,917円	卓球	
運動場	24日	332人	15,648円	陸上競技	
体育館	5日	88人	910円	陸上競技	
計	441日	5,584人	91,130円		

令和7年度

(令和7年10月31日現在)

施設名	利用日数	延利用人数	利用者負担金 (電気料実費)	主な利用種目	備考
武道場	142日	2,412人	18,481円	柔道 新体操	
レスリング場	43日	194人	3,713円	レスリング	
卓球場	59日	437人	15,037円	卓球	
運動場	17日	254人	11,744円	陸上競技	
計	261日	3,297人	48,975円		

□□□□

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） いじめ防止対策推進法（第8条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等修学支援事業補助金（奨学のための給付金）交付要綱 静岡県手数料徴収条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第44条、第45条、第47条）

□□□□

学校施設の概要

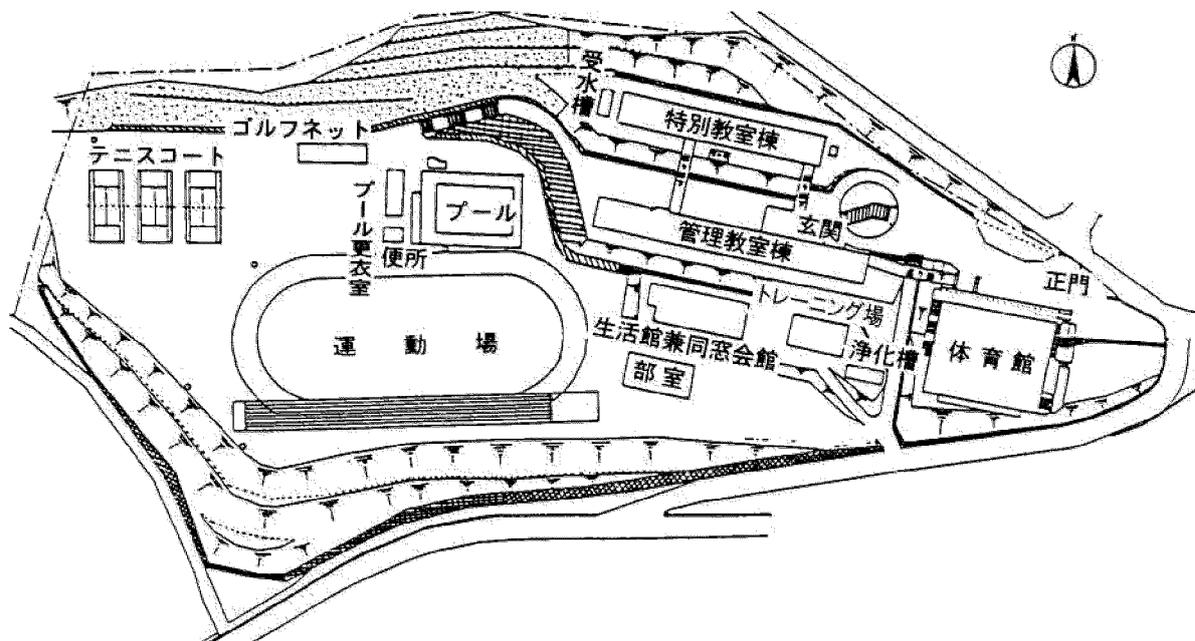
1 面積及び所有区分

(令和7年10月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県 有 m ²	国 有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民 有 m ²	
学 校 敷 地	46,714.82	46,714.82					
内 訳	校舎敷地	28,217.00	28,217.00				
	運動場敷地	18,497.82	18,497.82				
	その他の敷地	0.00	0.00				
校 舎	<u>建1,920.54</u> 延6,696.73	<u>建1,920.54</u> 延6,696.73					
体 育 館	<u>建1,250.83</u> 延2,371.20	<u>建1,250.83</u> 延2,371.20					1階武道場 2階競技場
その他の建物	<u>建 655.34</u> 延 669.66	<u>建 655.34</u> 延 669.66					
生 活 館	<u>建 458.57</u> 延 764.73				<u>建 458.57</u> 延 764.73		
プ ー ル	400.00	400.00					25m×16m 8コース
職 員 住 宅	12戸	12戸					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等(法面・演習林等を除く)

区分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当校	46,714.82m ²	6,696.73m ²	18,497.82m ²
県平均	45,574.48m ²	9,782.41m ²	22,506.84m ²

□□□□

在 籍 生 徒 調

(令和7年10月31日現在)

学年	学科別		普 通 科			
	区分		定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		80	27	29	56
		増 加 減 少				
	現 在			27	29	56
2年	入 学 者		80	34	47	81
		増 加				
		減 少			2	2
	2年時当初			34	45	79
		増 加				
		減 少		2		2
現 在			32	45	77	
3年	入 学 者		80	30	41	71
		増 加				
		減 少		1	1	2
	2年時当初			29	40	69
		増 加		1		1
		減 少			1	1
	3年時当初			30	39	69
		増 加 減 少				
現 在			30	39	69	
合 計				89	113	202

□□□□

入学志願者及び入学者数調

区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通	普通	普通	普通	普通
生徒定員 (A)		80	80	80	80	80
募集者数 (B)		80	80	80	80	80
志願者数	男	29 (0)	36 (0)	30 (0)	32 (3)	30 (0)
	女	30 (0)	34 (0)	37 (4)	47 (0)	29 (0)
	計 (C)	59 (0)	70 (0)	67 (4)	79 (3)	59 (0)
受検者数	男	29 (0)	36 (0)	30 (0)	32 (3)	29 (0)
	女	30 (0)	34 (0)	37 (4)	47 (0)	29 (0)
	計 (D)	59 (0)	70 (0)	67 (4)	79 (3)	58 (0)
合格者数	男	28 (0)	36 (0)	30 (0)	32 (2)	27 (0)
	女	30 (0)	34 (0)	37 (4)	47 (0)	29 (0)
	計 (E)	58 (0)	70 (0)	67 (4)	79 (2)	56 (0)
志願倍率 (C)／(B)		0.74	0.88	0.84	0.99	0.74
受検倍率 (D)／(B)		0.74	0.88	0.84	0.99	0.73
入学者数	男	28	36	30	34	27
	女	30	34	41	47	29
	計 (F)	58	70	71	81	56
充足率 (F)／(A)		0.73	0.88	0.89	1.01	0.70

□□□□

卒業生の動向調

1 進路状況

学 科 別		普 通 科			
年 度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	
卒業生徒数		79	52	68	
内	(進学志願者)	(56)	(35)	(39)	
	進学者	大学・短大	15	7	10
		専修・各種学校等	41	28	29
		小 計	56	35	39
訳	就 職 者	21	15	26	
	自 営 者	1	2	2	
	進 学 準 備 者	0	0	0	
	そ の 他	1	0	1	
合 計		79	52	68	

2 求人状況

区 分	令和4年度	令和5年度	令和6年度
就職希望者数	21	17	28
求 人 数	443	445	438
求 人 倍 率	21.1	26.2	15.6

3 資格取得状況

(令和6年度)

学 科 別		普通科	
卒業生徒数		68	
全国商業高等学校協会	簿記実務検定	2級	0
		3級	7
日本情報処理検定協会	日本語ワープロ検定	2級	2
		準2級	4
		3級	4
日本情報処理検定協会	情報処理検定(表計算)	2級	0
		準2級	1
		3級	0
日本英語検定協会	実用英語技能検定	2級	0
		準2級	1
合 計		19	

□□□□

生 徒 の 状 況

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地

(令和7年10月31日現在) (単位：人)

市 町 名	東伊豆町	河津町	下田市	南伊豆町	伊東市	その他	合 計
生徒数	69	47	70	10	4	2	202
構成比%	34.1	23.3	34.6	5.0	2.0	1.0	100%

(2) 通学方法

(令和7年10月31日現在) (単位：人)

区 分	バ ス	電 車	バス・電車	自転車 (バス・電車併用)	徒 歩	その他	合 計
生徒数	24	0	28	21	11	118	202
構成比%	11.9	0.0	13.9	10.4	5.4	58.4	100%

2 部（クラブ）の加入状況

(令和7年10月31日現在) (単位：人)

区 分		運 動 部	文 化 部	未加入者	計
部（クラブ）数		7	4	/	11
男子	1 年	15	12	0	27
	2 年	20	12	0	32
	3 年	16	14	0	30
	計（A）	51	38	0	89
	構 成 比	57.3%	42.7%	0.0%	100%
女子	1 年	11	18	0	29
	2 年	18	27	0	45
	3 年	15	24	0	39
	計（B）	44	69	0	113
	構 成 比	38.9%	61.1%	0.0%	100%
合計	（A+B）	95	107	0	202
	構 成 比	47.0%	53.0%	0.0%	100%

□□□□

授 業 料

(全日制)

期 別	月 別	調定の状況							
		1年		2年		3年		計	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額
	人	円	人	円	人	円	人	円	
一 期	4								
	5								
	6								
	7	4	118,800	5	148,500	3	89,100	12	356,400
	8								
	計	4	118,800	5	148,500	3	89,100	12	356,400
二 期	7								
	8								
	9								
	10	5	247,500	6	277,200	6	297,000	17	821,700
	11								
	計	5	247,500	6	277,200	6	297,000	17	821,700
三 期	12								
	1	5	198,000	4	158,400	6	237,600	15	594,000
	2								
	3								
	計	5	198,000	4	158,400	6	237,600	15	594,000
合計		14	564,300	15	584,100	15	623,700	44	1,772,100

令和7年度 令和7年10月31日現在 該当なし

収 納 状 況 調

(令和6年度)

収納の状況				異動者等の状況
納期内収納額	納期後	収入		
収納率	収納額	未済額		
円	%	円	円	
				A. 期首収納権利発生額 = 356,400円 (12人×9,900×3月)
297,000	83.33	0	59,400	B. 収納権利増減(▲)額 = 0円 C. 収納必要額A(±)B = 356,400円
		59,400	0	
297,000	83.33	59,400	0	
				A. 期首収納権利発生額 = 821,700円 (16人×9,900×5月) (1人×9,900×3月)
821,700	100.00	0	0	B. 収納権利増減(▲)額 = 0円 C. 収納必要額A(±)B = 821,700円
821,700	100.00	0	0	
				A. 期首収納権利発生額 = 594,000円 (15人×9,900×4月)
554,400	93.33	0	39,600	B. 収納権利増減(▲)額 = 0円 C. 収納必要額A(±)B = 594,000円
		39,600	0	
554,400	93.33	39,600	0	
1,673,100	94.41	99,000	0	D. 収納必要額 = 1,772,100円

□□□□

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度 (令和7年10月31日現在)
	件 数	件 数
人 学 検 定 料	60	0

□□□□

預 金 調

(令和7年10月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口 座 名 義 人	残高(円)	摘 要
静岡銀行 稲取支店	無利息型 普通預金	0414362	稲取高等学校資金前渡者 森 泰博	0円	給与振替口座
静岡銀行 稲取支店	無利息型 普通預金	0414373	(自振口) 稲取高等学校 資金前渡者 森 泰博	0円	公共料金等 自動振替用口座
残 高 合 計				0円	

□□□□

郵 券 等 受 払 調

(令和7年10月31日現在)

(単位 : 枚、円)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						摘要		
		繰 越		受 入		払 出		繰 越		受 入		払 出			差引現在高	
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額
郵便	110円券	0枚	0円	34枚	3,740円	34枚	3,740円	0枚	0円	4枚	440円	4枚	440円	0枚	0円	文書郵便
計		/	0円	/	3,740円	/	3,740円	/	0円	/	440円	/	440円	/	0円	

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	日	執行済額(円)		
					令和5年度	令和6年度	左のうち、令和5年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		1,503,480	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		874,940	
計					1,078,682	2,378,420	0
(14)工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		3,058,000	
計					2,629,000	3,058,000	0
(16)公有財産購入費						0	
計					0	0	0
(17)備品購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		282,700	
計					849,200	282,700	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		24,241,200	
計					21,722,600	24,241,200	0
(21)補償、補填及び賠償金						0	
計					0	0	0

□□□□

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年10月31日現在)

節名	会計	款	項	日	執行済額(円)	
					令和6年度	うち、令和6年度からの繰越額分
(12)委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	1,155,000	0
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	469,370	0
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費	0	0
計					1,624,370	0
(14)工事請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	0
計					0	0
(16)公有財産購入費					0	0
計					0	0
(17)備品購入費					0	0
計					0	0
(18)負担金、補助及び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	15,032,200	0
計					15,032,200	0
(21)補償、補填及び賠償金					0	0
計					0	0

委託料に関する調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要										
				当初額	変更増減額	計																
1	(事務関係) 浄化槽保守点検業務	南南豆浄化槽管理センター	300,740	300,740	0	300,740	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.31	28,930	賀茂地区3校の浄化槽維持管理	随契1号(少額)稲取・下田・南伊豆分校										
									6.6.28	23,375												
									6.7.31	26,290												
									6.8.30	22,110												
									6.9.30	33,935												
									6.10.31	15,730												
									6.11.29	32,670												
									6.12.24	23,375												
									7.1.31	26,290												
									7.2.28	19,690												
									7.3.31	32,615												
									7.4.25	15,730												
									小計	300,740												
									2	自家用電気工作物保安管理業務			兼出電気管理事務所 佐藤兼臣	392,700	392,700	82,500	475,200	随契	6.4.1 ～ 7.3.31	6.5.15	32,725	自家用電気工作物保安管理
6.6.28	35,625																					
6.7.31	44,825																					
6.8.30	40,225																					
6.9.30	40,225																					
6.10.31	40,225																					
6.11.29	40,225																					
6.12.24	40,225																					
7.1.31	40,225																					
7.2.28	40,225																					
7.3.31	40,225																					
7.4.25	40,225																					
小計	475,200																					
3	警備業務	セコム株	10,868,418	3,484,800	0	3,484,800	一般	1.10.1 ～ 6.9.30			(3,136,320)	賀茂地区6校の機械警備								31長期稲取・下田・南伊豆分校・松崎伊豆の国特別支援伊豆下田分校伊豆の国特別支援伊豆松崎分校		
									6.5.31	58,080												
									6.6.28	58,080												
									6.7.31	58,080												
									6.8.30	58,080												
									6.9.30	58,080												
									6.10.31	58,080												
									小計	348,480												
									4	警備業務	セコム(株)		12,047,838	11,550,000	0	11,550,000	一般	6.10.1 ～ 11.9.30	(0)		賀茂地区6校の機械警備	R6長期稲取・下田・南伊豆分校・松崎伊豆の国特別支援伊豆下田分校伊豆の国特別支援伊豆松崎分校
																			6.11.29			
6.12.24	192,500																					
7.1.31	192,500																					
7.2.28	192,500																					
7.3.31	192,500																					
5	産業廃棄物収集運搬処分業務	(株)フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	6.11.25 ～ 7.3.25	7.2.20	99,000	廃棄物コンテナ1台分の処分	随契1号(少額)										
									小計	1,155,000												
事務関係計		5件		15,827,240	82,500	15,909,740				2,378,420												
合計		5件		15,827,240	82,500	15,909,740				2,378,420												

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	消防用設備等保守点検業務	関藤興産	/	1,859,000	0	1,859,000	/	6.4.1 ～ 7.3.31	/	/	下田高校外3校の消防用設備等機能維持	下田高校
参考2	プール浄化装置保守点検業務	(株)山静商会	/	135,300	0	135,300	/	6.4.25 ～ 6.10.31	/	/	松崎高校外2校のプール浄化装置保守点検	松崎高校
参考3	下田町海地区立中学校建築工事等12条に基づく定期点検業務	(株)コーセイ産業	/	2,023,780	0	2,023,780	/	6.7.18 ～ 6.10.31	/	/	伊豆伊東高校外5校の定期点検	伊豆伊東高校
計		3件		4,018,080	0	4,018,080						

□□□□

委託料に関する調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 浄化槽保守点検業務	南南豆浄化槽管理センター	円 300,740	円 300,740	円 0	円 300,740	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.26 28,930 7.6.26 23,375 7.7.28 26,290 7.8.25 22,110 7.9.26 33,935 7.10.29 15,730 小計 150,370	円 28,930 23,375 26,290 22,110 33,935 15,730 150,370	賀茂地区3校の浄化槽維持管理	随契1号(少額) 稲取 下田 南伊豆分校
2	自家用電気工作物保安管理業務	米田電気管理事務所 佐藤兼臣	円 543,400	円 543,400	円 0	円 543,400	随契	7.4.1 ～ 8.3.31	7.5.26 37,400 7.6.26 37,400 7.7.25 37,400 7.8.25 37,400 7.9.26 132,000 7.10.28 37,400 小計 319,000	円 37,400 37,400 37,400 132,000 37,400 319,000	自家用電気工作物保安管理	随契1号(少額)
3	警備業務	セコム㈱	円 12,047,838	円 11,550,000	円 0	円 11,550,000	一般	6.10.1 ～ 11.9.30	7.5.30 192,500 7.6.30 192,500 7.7.30 192,500 7.8.29 192,500 7.9.30 192,500 7.10.30 192,500 小計 1,155,000	(1,155,000) 192,500 192,500 192,500 192,500 192,500 192,500 1,155,000	賀茂地区6校の機械警備	R6長期 稲取 下田 南伊豆分校 松崎 伊豆の国特別支援伊豆 下田分校 伊豆の国特別支援伊豆 松崎分校
4	総合的な探究の時間コーディネーター業務	合同会社so-an	円 99,000	円 99,000	円 0	円 99,000	随契	7.5.1 ～ 7.12.31		円 0	「総合的な探究の時間」のコーディネーター業務	随契1号(少額)
5	産業廃棄物収集運搬処分業務	㈱フジタ	円 99,000	円 99,000	円 0	円 99,000	随契	7.10.24 ～ 8.3.19		円 0	廃棄物コンテナ1台分の処分	随契1号(少額)
6	産業廃棄物収集運搬業務	日本産業廃棄物処理㈱	円 66,770	円 66,770	円 0	円 66,770	随契	7.11.1 ～ 8.3.27		円 0	理科標本の運搬	随契1号(少額)
7	産業廃棄物処分業務	三光㈱	円 14,850	円 14,850	円 0	円 14,850	随契	7.11.1 ～ 8.3.27		円 0	理科標本の処分	随契1号(少額)
	事務関係計	7件		円 12,673,760	円 0	円 12,673,760				円 1,624,370		
	合計	7件		円 12,673,760	円 0	円 12,673,760				円 1,624,370		

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
参考1	消防用設備等保守点検業務	櫻藤興産		円 1,859,000	円 0	円 1,859,000		7.4.1 ～ 8.3.31			下田高校外3校の消防用設備等機能維持	下田高校
参考2	プール浄化装置保守点検業務	南山静商会		円 135,300	円 0	円 135,300		7.4.25 ～ 7.10.31			松崎高校外2校のプール浄化装置保守点検	松崎高校
参考3	下田郡高地区農学校建築基準法第12条に基づく定期点検業務	㈱コーセイ産業		円 2,749,340	円 0	円 2,749,340		7.8.1 ～ 7.11.28			伊豆伊東高校外6校の定期点検	伊豆伊東高校
	計	3件		円 4,743,640	円 0	円 4,743,640						

□□□□

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国校長協会第76回総会・研究協議会参加費	静岡県高等学校長協会	会規約等	総会・研究協議会参加	4,000円	R6.4.30
2	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	静岡県高等学校長協会生徒指導専門委員会	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会開催要項	連絡協議会参加	2,000円	R6.7.19
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期 207名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	6,147,900円	振替日 R6.7.31
4	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期 203名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	10,048,500円	振替日 R6.10.31
5	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(転進者2名11月分戻入)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	-19,800円	戻入振替日 R6.12.5
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(週及認定1名7月～11月分還付)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	49,500円	R7.1.10
7	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(転入者週及認定1名9～11月分還付)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	29,700円	R7.1.28
8	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第3期 202名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	7,999,200円	振替日 R7.1.31
9	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(退学者1名2～3月分戻入)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	-19,800円	戻入振替日 R7.2.10
	計	9件			24,241,200円	

□□□□

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	全国校長協会第77回総会・研究協議会参加費	静岡県高等学校長協会	会規約等	総会・研究協議会参加	4,000円	R7.4.30
2	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期 191名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	5,672,700円	振替日 R7.7.31
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第2期 190名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,355,500円	振替日 R7.10.31
	計	3件			15,032,200円	

□□□□

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	令和6年度 静岡県立稲取高等学校受水槽揚水ポンプ2号機更新工事	東伊豆町稲取地内	円 1,738,000	円 1,650,000	円 0	円 1,650,000	随契
2	教育管理費	令和6年度 静岡県立稲取高等学校一般用教職員住宅照明LED化工事	東伊豆町奈良本地内	円 704,000	円 704,000	円 0	円 704,000	随契
3	教育管理費	令和6年度 静岡県立稲取高等学校一般用教職員住宅屋外埋設污水管更新工事	東伊豆町奈良本地内	円 704,000	円 704,000	円 0	円 704,000	随契
合 達 分 計		3 件		3,146,000	3,058,000	0	3,058,000	
合 計		3 件		3,146,000	3,058,000	0	3,058,000	

事 調

(令和6年度)

受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
ヤマト設備工業(株)	着手 R7.1.15 完成 R7.3.25	円 1,650,000	受水槽ポンプ室内の揚水ポンプ2号機及びその周辺器具を更新する工事	—	令達年月日 R6.12.19 最終支払日 R7.4.14 随契1号(少額)
榑田村電気商会	着手 R7.1.15 完成 R7.3.11	円 704,000	一般用教職員住宅の照明をLED化する工事	—	令達年月日 R6.12.20 最終支払日 R7.3.28 随契1号(少額)
伊豆冷暖房工業(株)	着手 R7.2.5 完成 R7.3.13	円 704,000	一般用教職員住宅の屋外埋設汚水管及び柵の一部を更新する工事	—	令達年月日 R7.1.14 最終支払日 R7.4.3 随契1号(少額)
		3,058,000			
		3,058,000			

□□□□

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工事箇所	当 初 設計金額	契 約 金 額			契約 締結 方法
					当初額	変更増減額	計	
1	教育管理費	令和7年度 静岡県 立稲取高等学校管理 教室棟進路相談室空 調設備更新工事	東伊豆町 稲取地内	円 2,365,000	円 2,200,000	円 0	円 2,200,000	随契
2	教育管理費	令和7年度 静岡県 立稲取高等学校電気 引込柱気中負荷開閉 器接地抵抗改修工事	東伊豆町 稲取地内	円 418,000	円 418,000	円 0	円 418,000	随契
令 達 分 計		2 件		2,783,000	2,618,000	0	2,618,000	
合 計		2 件		2,783,000	2,618,000	0	2,618,000	

事 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

受注者	着手 完成(予定) 年 月 日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
伊豆冷暖房工業㈱	着手 R7. 7. 24 完成 R7. 10. 31	円 —	管理教室棟進路相談室の空調設備一式を更新する工事	予	令達年月日 R7. 6. 25 最終支払日 — 随契1号(少額)
榎田村電気商会	着手 R7. 10. 10 完成 R8. 2. 26	円 —	気中負荷開閉器と受電設備の間を配線することで周囲の接地抵抗値を改善する工事	—	令達年月日 R7. 9. 19 最終支払日 — 随契1号(少額)
		0			
		0			

□□□□

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日		増		減		令和7年3月31日		摘要
	現 在	現 在	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産		千円 1,527,860		千円		千円 14,816		千円 1,513,044	
土 地	m ² 46,714.82	1,298,672	m ²		m ²		m ² 46,714.82	1,298,672	
立木竹	本 35	4,081	本		本		本 35	4,081	
建 物	m ² 3,826.71 9,737.59	215,124	m ² _____		m ² _____	13,956	m ² 3,826.71 9,737.59	201,168	
工 作 物	個 52	9,983	個		個	860	個 52	9,123	
普通財産		55,607				1,721		53,886	
上 地	m ² 1,847.08	53,886	m ²		m ²		m ² 1,847.08	53,886	
建 物	m ² 231.12 538.71	1,199	m ² _____		m ² _____	1,199	m ² 231.12 538.71	0	
工 作 物	個 5	522	個		個	522	個 5	0	
公有財産 に準ずる もの		121						121	
電 話 加 入 権	5	121					5	121	

□□□□

公 有 財 産 調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

区 分	令和7年3月31日		増		減		令和7年10月31日		摘 要
	現 在		数量又 は面積	台 帳 価 格	数量又 は面積	台 帳 価 格	現 在		
	数量又 は面積	台 帳 価 格					数量又 は面積	台 帳 価 格	
行政財産	千円 1,513,044		千円		千円		千円 1,513,044		
土 地	m ² 46,714.82	1,298,672	m ²		m ²		m ² 46,714.82	1,298,672	
立木竹	本 35	4,081	本		本		本 35	4,081	
建 物	m ² 3,826.71 9,737.59	201,168	m ²		m ²		m ² 3,826.71 9,737.59	201,168	
工 作 物	個 52	9,123	個		個 1	0	個 51	9,123	
普通財産	53,886		53,886		53,886		53,886		
上 地	m ² 1,847.08	53,886	m ²		m ²		m ² 1,847.08	53,886	
建 物	m ² 231.12 538.71	0	m ²		m ²		m ² 231.12 538.71	0	
工 作 物	個 5	0	個		個		個 5	0	
公有財産 に準ずる もの	121		121		121		121		
電 話 加入権	5	121					5	121	

□□□□

借地借家等調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約期間	所有者又 は契約者 氏 名	用 途
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	建 物	事務所建	賀茂郡東伊豆町 稲取3012-2		S造2階建	458.57㎡ ————— 764.73㎡	円	円	3.4.1 } 8.3.31	稲取高等学校 後援会長	生活館兼 同窓会館
2	土 地	道路敷	賀茂郡東伊豆町 奈良本1426地先	道 路	道 路	31.00m		無 償	6.4.1 } 9.3.31	東伊豆町長	管類布設 (給水管)
3	工作物	冷暖房 装置	賀茂郡東伊豆町 稲取3012-2			1個		3,555,646	3.7.1 } 16.6.30	三井住友 ファイナ ンス&リ ース株 式会社	普通教室 空調
4	工作物	冷暖房 装置	賀茂郡東伊豆町 稲取3012-2			1個		4,255,608	6.7.1 } 19.6.30	NTT・TC リース株 式会社 静岡 支店	特別教室 空調
	計							7,811,254			

□□□□

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和6年度)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)				
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
長期継続契約	電子複写機賃貸借契約	電子複写機 2台 (契約日) 令和2年4月1日	1,189,584	237,916	237,917	237,917	237,917	237,917

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年10月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内 容	契約額	(契約額の年度別内訳)					
				令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
長期継続契約	稲取高等学校外5校警備業務委託	警備機器 1式 (契約日) 令和6年9月13日	11,550,000	1,155,000	2,310,000	2,310,000	2,310,000	2,310,000	1,155,000
	電子複写機賃貸借契約	電子複写機 2台 (契約日) 令和7年4月1日	2,842,620		568,524	568,524	568,524	568,524	568,524

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 目		数 量 又 は 積 面	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期	貸付又は使用許可を 受けた者の氏名	貸付・ 使用許可 目的
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	学校敷地	賀茂郡東伊豆町 稲取 3012-2	学 校 敷 地	学 校 敷 地	本柱 2本 支線 5条	円	円	4. 4. 1 9. 3. 31	東京電力パワーグリッド ㈱ 伊豆支社長	電柱等 設 置
2	"	"	"	"	"	支柱 1本 支線柱1本 支線 6条 管路 9m	1,500	13,500	7. 4. 1 12. 3. 31	西日本電信電話㈱ 静岡支店長	電柱等 設 置
3	"	"	"	"	"	0.45 m ²	免	除	4. 4. 1 9. 3. 31	東 伊 豆 町 長	避難地 標 識 設 置
4	"	"	"	"	"	9.76 m ²	免	除	7. 4. 1 12. 3. 31	東 伊 豆 町 長	防災用 倉 庫 設 置
5	"	"	"	"	"	458.45 m ²	免	除	7. 4. 1 12. 3. 31	稲 取 高 等 学 校 後 援 会 長	生活館 同 会 館 敷 地
6	建物	事務所建	"	管理教室棟	RC造 4階建	27.30 m ²	免	除	6. 4. 1 9. 3. 31	稲 取 高 等 学 校 後 援 会 長	売 店 設 置
7	土地 建物	学校敷地 事務所建	"	学校敷地 管理教室棟	学校敷地 RC造4階建	12.50 m ² 3.30 m ²	免	除	5. 4. 1 8. 3. 31	稲 取 高 等 学 校 P T A 会 長	PTA 職員 の 務 務 所 駐 車 場
8	"	学校敷地 地下埋設物 事務所建	"	学校敷地 管理教室棟 特別教室棟	学校敷地 RC造4階建	0.22 m ² 21m ² 15.09 m ²		15,680	7. 4. 1 10. 3. 31	総 務 省 関 東 総 合 通 信 局 長	遠 隔 方 位 設 備 設 置
9	"	学校敷地 事務所建	"	学校敷地 管理教室棟	学校敷地 RC造4階建	4.0 m ² 3.0 m ²		6,000 3,300	6. 4. 1 9. 3. 31	コカ・コーラ ボトラーズジャパン㈱ バンディング中部日本 支部統括部 バンディ ング 静岡支店長	白 動 販 売 機 設 置
合 計								48,980			

□□□□

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区分	種 別	所 在 地	地 日		数量又は 面 積	貸付料又は使用料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用許可を 受けた者の氏名	貸付・使 用許可 日 的
				台 帳	現 況		単 価	年 額			
1	土地	公 舎 敷 地	賀茂郡東伊豆町 奈良本 1426-44	住 宅 敷 地	住 宅 敷 地	本柱 2本 支線柱1本 支線 1条	円 1,500	円 6,000	5. 4. 1 8. 3. 31	東京電力パワーグリ ッド㈱ 伊豆支社長	電柱等 設 置
合 計								6,000			

□□□□

職員公舎管理状況調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	所 在 地	建築 年月	構 造	管理戸 (室) 数 (A)	入居戸 (室) 数 (B)	Bの内他事務所 職員入居戸 (室)数	空屋戸 (室) 数 (A-B)	摘 要
1	賀茂郡東伊豆町 奈良本1426-44	昭和 52年4月	鉄筋コンクリート造 3階建1棟	戸 6	戸 4	戸 0	戸 2	世帯用住宅 土地 県有 建物 県有 H28.4.1より 空室1戸 R4.4.1より 空室1戸
2	賀茂郡東伊豆町 奈良本1426-44	昭和 52年4月	鉄筋コンクリート造 2階建1棟	戸 6	戸 0	戸 0	戸 6	単身用住宅 土地 県有 建物 県有 R2.4.1より 空室1戸 R3.10.1より 空室1戸 R4.7.1より 空室1戸 R5.4.1より 空室2戸 R6.9.1より 空室1戸
	計			戸 12	戸 4	戸 0	戸 8	

□□□□

主 要 備 品 調

(令和7年10月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購 入 年 月	購 入 金 額
	大・中	小				
1	10-12	室内競技用器具	体操用ゆか (セノー A110430他)	部活動(新体操)で競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 13. 8	9,497,250
2	02-01	パーソナルコンピュータ(一式)	県立学校ICT環境整備機器一式 (富士通 サーバーPVT1324T3S 他)	情報教育の実習でほぼ毎日使用	R 2. 1	5,822,806
3	02-01	パーソナルコンピュータ周辺機器	パーソナルコンピュータ周辺機器 (エプソン プロジェクターEB-536WT 他)	全教科の授業でほぼ毎日使用	H 29. 7	2,775,600
4	10-12	室内競技用器具	レスリングマット (折原製作所 WG-727)	部活動(レスリング)で競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 11. 12	2,079,000
5	10-12	室内競技用器具	体操用ゆか(カーペット部分のみ) (セノー A110430の一部)	部活動(新体操)で競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 14. 2	2,042,250
6	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ (カワイ RX-3 椅子付)	音楽の授業及び部活動(吹奏楽)でほぼ毎日使用	H 10. 1	1,199,625
7	02-02	放送装置	音声調整卓 (パナソニック WE-SA113)	校内放送管理用として常時使用	H 29. 2	1,161,000
8	10-12	トレーニング用器具	レッグカール&エクステンションマシン (セノー BA2113)	運動部の競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 1. 12	1,091,800
9	10-12	トレーニング用器具	レッグプレス&バックキックマシン (セノー BA2013)	運動部の活動の競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 1. 12	952,750
10	10-12	トレーニング用器具	バタフライ&ローイングマシン (セノー BA2413)	運動部の競技力向上用としてほぼ毎日使用	H 1. 12	942,450
11	02-02	その他の情報伝達機器	遠隔教育機器一式 (SONY 電子黒板 FW-75BZ30L 他)	数学等の授業でほぼ毎日使用	R 7. 2	913,231
12	03-03	プロジェクター	プロジェクター (エプソン EB-1945W 他)	全教科の授業でほぼ毎日使用	H 28. 3	702,000
13	03-03	プロジェクター	プロジェクター (エプソン EB-960W)	全教科の授業でほぼ毎日使用	H 31. 3	687,420
14	02-02	その他の情報伝達機器	電子黒板 (ELMO CBS-ELM75F8CL 75型)	数学等の授業でほぼ毎日使用	R 6. 3	564,300
15	02-02	放送装置	体育館放送装置 (パナソニック WP-1100A 他 一式)	朝礼等の学校行事の放送用として常時使用	H 23. 1	557,550
16	02-01	その他の情報処理機器	校内LANサーバ等(一式)	校内LANシステムの管理用として常時使用	H 29. 3	475,956
17	01-04	戸棚	薬品器具戸棚 (ウチダ 1800×2400)	理科(化学)実験用の薬品類を常時保管	H 9. 3	442,900
18	01-04	戸棚	薬品器具戸棚 (ウチダ 1800×2400)	理科(化学)実験用の薬品類を常時保管	H 9. 3	442,900
19	01-04	金庫	耐火金庫 (金剛 N-300P)	学校運営に関する書類を常時保管	H 17. 12	433,650
20	01-14	エアコンディショナー	壁掛形パッケージエアコン (ダイキン SZZA63CBNT)	夏期及び冬期の来客時等に年間50日程度使用	H 26. 6	424,440

□□□□

職 員 調

(令和7年10月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要	
1	校長	森 泰博		□□□	年 月 □ □		□□□
2	副校長	尾上 弘介		□□□	□ □	□□□ □□□□□□□□	□□□
3	教 頭	鈴木 智久	商 業	□□□	□ □		□□□
4	事務長	土屋 真珠美		□□□	□ □	□□□ □□□□□□□□	
5	教 諭	山田 智子	理 科	□□□	□ □		□□□
6	〃	下山 順一	保健体育	□□□	□ □		□□□
7	〃	鈴木 泰	英 語	□□□	□ □		□□□
8	〃	関野 祥子	国 語	□□□	□ □		□□□
9	〃	雲野 由起子	英 語	□□□	□ □		□□□
10	〃	川口 馨	音 楽	□□□	□ □		□□□
11	〃	齋藤 伸吾	商 業	□□□	□ □		□□□
12	〃	烏澤 祐一	保健体育	□□□	□ □		□□□
13	〃	飯田 多賀乃	国 語	□□□	□ □		□□□
14	〃	田力 秋洋	数 学	□□□	□ □		□□□
15	〃	堀内 椋太	体 育	□□□	□ □		□□□
16	〃	森本 愛斗	数 学	□□□	□ □		□□□
17	〃	黒木 光	理 科	□□□	□ □		□□□
18	〃	秋山 武志	地歴公民	□□□	□ □		□□□
19	〃	松久保 仁志	地歴公民	□□□	□ □		□□□
20	〃	松山 睦	家 庭	□□□	□ □		□□□
21	養護教諭	瀬戸 菜摘	養 護	□□□	□ □		□□□
22	主 査	稲葉 小百合	会計・管財	□□□	□ □	□□□□□□ □□□□□□□□	
23	主 事	石原 誠也	庶務・会計	□□□	□ □	□□□□□□ □□□□□□□□	
24	主任技能員	増田 隆昭	用 務	□□□	□ □		
平均年数					4	3	

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要	
1	実習助手(臨)	十屋 美保	理 科	□□□	□ □		
2	非常勤講師	竹原 潔	国 語	□□□	□ □		□□□
3	〃	中川 新多朗	数 学	□□□	□ □		□□□
4	〃	望月 貴子	美 術	□□□	□ □		□□□
5	〃	遠藤 真由美	英 語	□□□	□ □		□□□
6	〃	村山 和彦	商 業	□□□	□ □		□□□
7	〃	佐々木 剛	通 級	□□□	□ □		□□□
8	非常勤労務職員	鈴木 身知子		□□□	□ □		
9	〃	川井 康司		□□□	□ □		
10	外国語指導講師	スタンリー・ルーカス	英 語	□□□	□ □		
11	校 医	中川 隆雄	内 科	□□□	□ □		
12	〃	大石 延正	耳 鼻 科	□□□	□ □		
13	〃	宇野 明彦	眼 科	□□□	□ □		
14	〃	村松 敏行	歯 科	□□□	□ □		
15	学校薬剤師	八代 由隆		□□□	□ □		

□□□□

職 員 の 年 齢 調

(令和7年10月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0人	
20歳以上30歳未満	5人	
30歳以上40歳未満	3人	
40歳以上50歳未満	4人	
50歳以上56歳未満	4人	
56歳以上61歳未満	8人	
61歳以上	0人	
計	24人	平均年齢 45.3歳

□□□□

健康管理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 24人 職員数 24人
受 診 率	100%
県平均受診率	100%

(1) 未受診の理由

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	1(1)人
C 2		要経過観察	3(3)人
D 1		要 治 療	2(2)人
D 2	平常の勤務でよい。	要経過観察	3(3)人
D 3		医 療 不 要	14(14)人
区 分 者 計			23(23)人
未区分者数			1人
合 計			24人

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

定期的に受診し、業務に支障なし

(2) 未区分の理由

ア 産休・育休 人
イ 新規採用 1人
ウ 自己都合による未受診 人
エ その他 () 人